

①2000GTの特徴的なフロントマスクを形成するフォグランプやグリルもオリジナルを忠実に再現したパーツを使用する。②フロントフェンダー右側のカバーを開けると、本物の2000GT同様にバッテリーが顔をのぞかせる。ちなみに反対側も本物同様にエアクリナーをセットしている。③④実車を正確に測定し、精密なCADデータを作成。それを基に各ボディパネルやパーツ類を作り出している。だからこそ質の高いレプリカ車両が完成するのだ。

新規3年車検付きで登録が可能となり、今夏には直列6気筒ガソリンエンジン搭載モデルも用意される。価格は1680万円からとなっているが、これを高いと見るか安いと見るか、その答えはご自分の目で確認してほしい。



驚愕の完成度を誇るハイブリッド版 トヨタ2000GTレプリカ!

2014年12月号で、先取り情報を掲載した、愛知県岡崎市ロッキーオートの手による2000GTレプリカプロジェクトだが、いよいよこの号が発売されるころには、ナンバーの取得が完了し試乗車が用意されるとの確定情報もたらされた。チームトヨタのキャプテンを務めた細谷四方洋さんが「RHV」と名付けた、この2000GTレプリカの最新情報をお届けしよう。

PHOTO : ROCKY AUTO STUDIO/ロッキーオートスタジオ
COOPERATION : ROCKY AUTO STUDIO/ロッキーオートスタジオ
TEL 0564-66-5488 <http://www.rockyauto.co.jp/>

THE HOTTEST TOPICS

にボディパネルを繊維強化プラスチックで精密に製作。この工程には成形ロボットによるオートメーション製作という最新の技術が採用されている。パイプフレームで構成されるシャシに繊維強化プラスチックで製作したボディを架装する2000GTレプリカ。バンパーをはじめ、グリルやレンズハウジング、エンブレムなどのパーツには、オリジナルを忠実に再現した再現パーツを使用。さらにすべて曲面ガラスが使用されているウインドー類まで、完璧に再現しているのだ。

さらに驚くべきことは、パワートレインにガソリンエンジン+電気モーターというハイブリッドシステムを選択していることだ。実際に使用されているのはTHV-II(トヨタハイブリッドシステムII)で、ミッションはCVT。エアコンやパワーステアリングも備えている。外観は完璧なまでのレプリカだが、メカニズムには最先端の技術を導入するという、驚愕の内容だ。

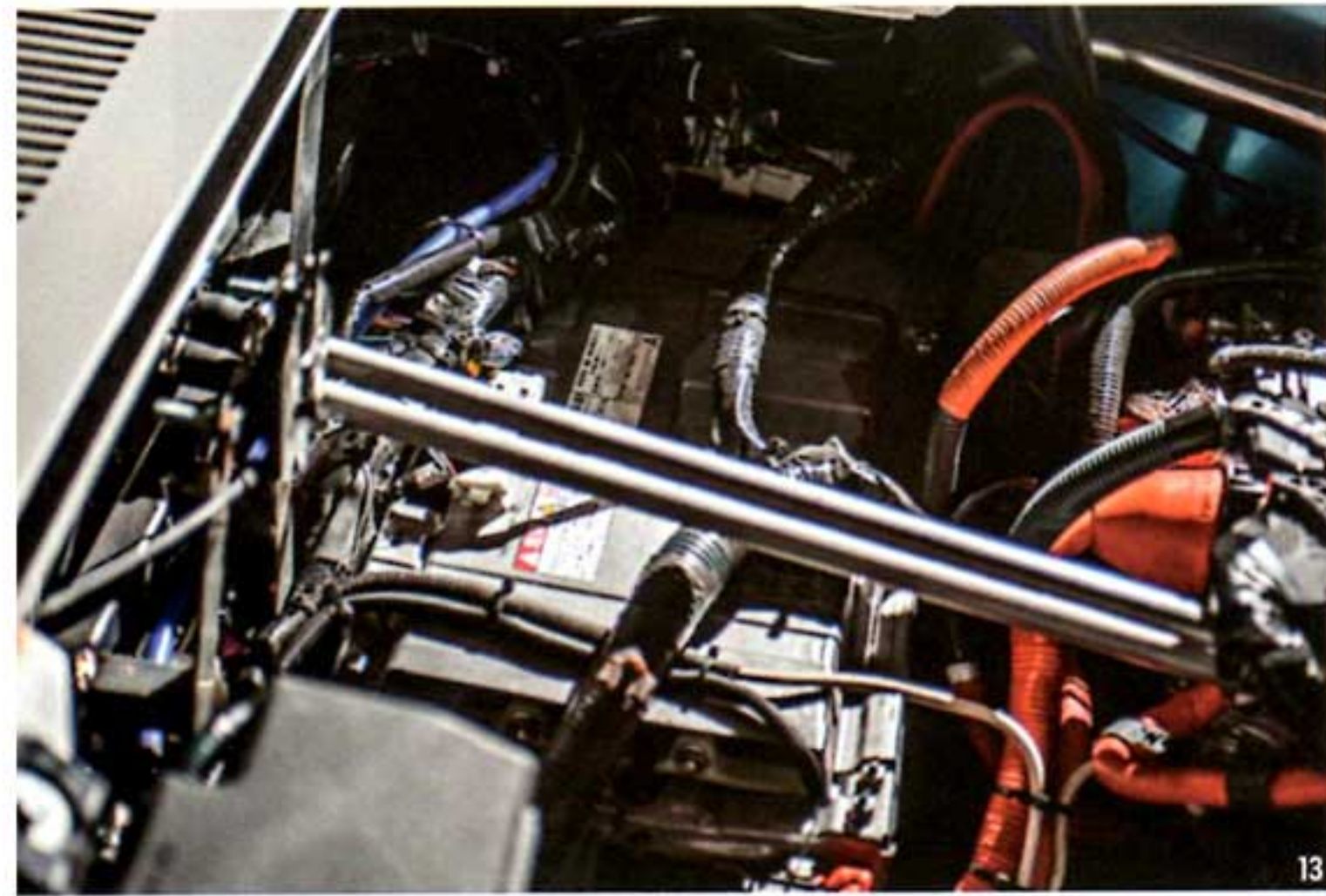
細谷さんは、この2000GTレプリカに「RHV(ロッキー・ハイブリッド・ビークル)」の名前を与えた。完成度が高く先進性の高いレプリカだからこそ、オリジナルに似せた名前ではなく、まったく違う名前を名乗ったほうが良いという、高い志ゆえのことだ。

動力系に現行車種用のユニットを採用することで、快適性を確保しながら、2000GTを楽しめるとは、この上ない贅沢といってもいいだろう。

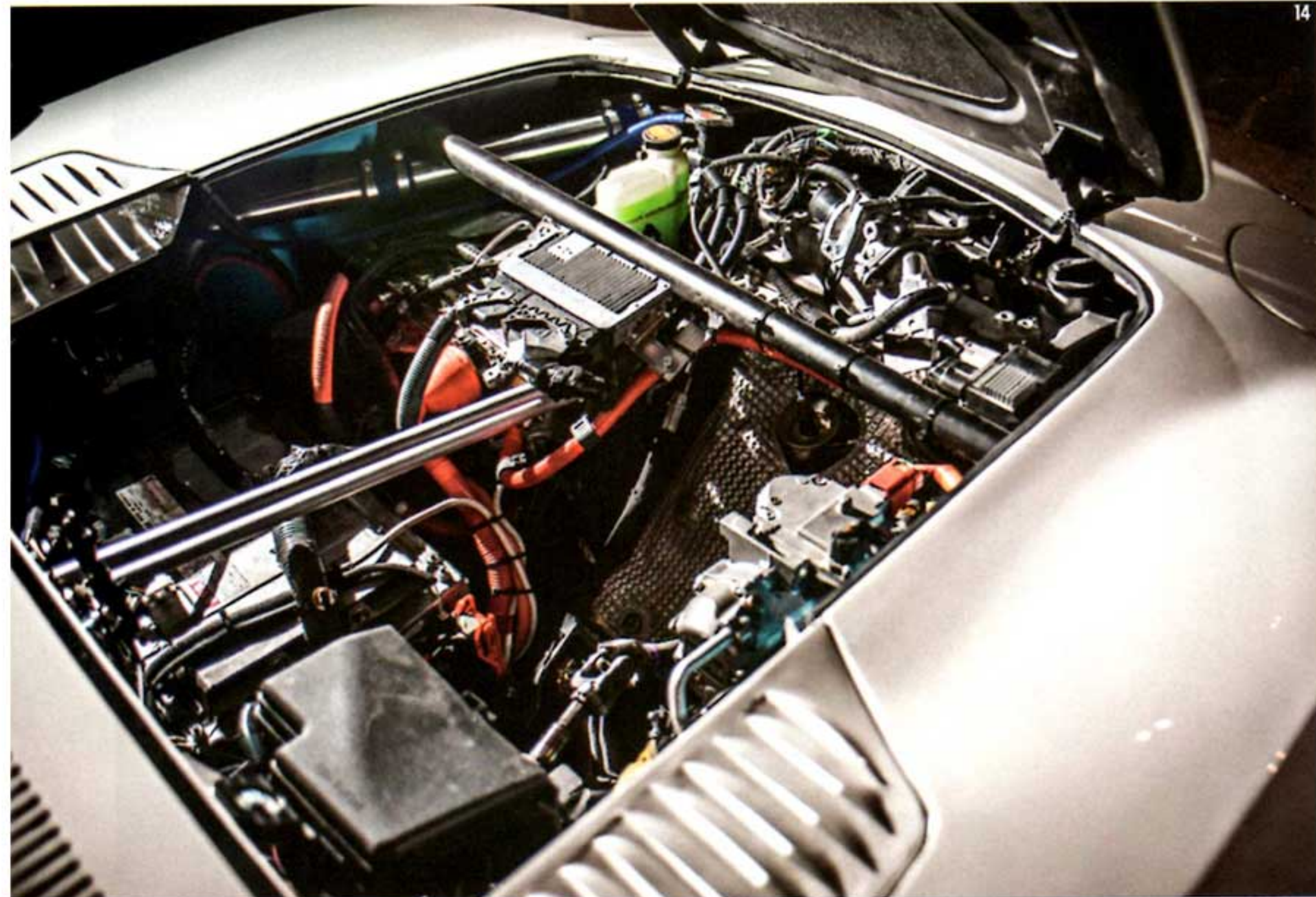
「今年にはトヨタ2000GT誕生50周年の年」。そう語るのには、3つの世界新記録と13の国際新記録を樹立した、2000GTのスピードドライアルをはじめ数々のレースで活躍したチームトヨタのキャプテン細谷四方洋さんだ。こう書く「50周年なら2017年でしょ」と、多くの読者から指摘をいただくことになりそうだが、細谷さんによれば、2000GTの1号車が完成したのは1965年8月14日だったそう。実際に市販されたのは67年なので、一般的には2017年が「50周年」という認識になるのだろうが、細谷さんが65年を基準と考えるのは、細谷さん自身がデザイナーの野崎諭さんのアシスタントとして、2000GTの開発に直接かかわっていたからだ。

そんな「本物」を知り尽くした細谷さんが監修を行った、2000GTレプリカが、このたびついに完成した。旧車を快適に乗るためのさまざまなカスタマイズを提案してきた、愛知県岡崎市のロッキーオートが製作。実は本誌でもこのレプリカの速報を前々号でお伝えしているが、ついにナンバーを取得し、公道を走り出せるまでの準備が整ったという。ただし、締め切りの関係で、実際にナンバーを付けて、公道で走っている姿をお届けすることはできないので、ここではより完成度が高まった実車を紹介してみたい。

まずはボディ。細谷さんが、もともとこだわった部分だ。フロントフェンダーが盛り上がる峰の部分やサイドのライン、ルーフからリアへと流れるラインなど、滑らかな曲線美こそが2000GTの最大の魅力。その魅力を正確に再現するため、実車を正確に測定した上でCADデータを作成。それを基



⑫インテリアをのぞいてみると、ようやく、このクルマがレプリカであることに気が付かされる。ステアリングはウッド&レザーのコンビで、インパネ&センターコンソールはウッドパネルが貼られている。エアバッグも作動するため安全面も向上しているといっている。エアコン&オートマチックでイーゼードライブが可能だ。ちなみに、直列6気筒エンジン搭載モデルでは、7速メーターを備えた、よりオリジナルに近い雰囲気のインテリアになる予定だ。



⑭ボンネットを開けてフードの裏側を見れば、手の込んだ作り込みがなされているのかわかる。普段見えない部分であっても一切妥協はない。



⑬⑭パワートレインにはTHS-II(トヨタハイブリッドシステムII)を流用。エンジンは1.5Lの4気筒エンジンとモーターを組み合わせたハイブリッドで、ミッションは電気式CVTとなる。またエアクリナーはオリジナルと同様、左のフロントフェンダー部分に収まるようにハイビングされている。音もなく走り去る姿には驚かざるを得ない。ちなみに、今夏登場予定のモデルは、本物と同じ直列6気筒DOHC構造の2JZ型エンジンを搭載する。さしずめ3000GTといったところだが、こちらのモデルにも大いに期待したい。



THE HOTTEST TOPICS

⑩美しいクロームメッキのデュアルマフラーもオリジナルを忠実に再現。⑪オリジナルの2000GTが装着するホイールは、センターロックのマグネシウムだが、こちらは耐久性を考えてアルミ鍛造で製作。4穴であるが、巧みなデザイン処理でセンターロック風に見える。

⑨バックドア右側に付けられる2000GTのエンブレムも本物を忠実に復元されたモノが取り付けられる。⑫ボンネットヒンジも本物を忠実に再現した部品を一から製作。レプリカの場合、こうしたディテールへのこだわりが全体の印象に大きくかかわってくる。



⑮ボンネットに設けられたエアアウトレットも、本物の2000GT同様に再現されている。⑯形状が独特なフェーエルリッドも形状、質感ともに本物同様に一から作られたパーツを使用する。⑰くすみのないリフレクターレンズとハウジング。形はオリジナルと同じ。質感も本物と見比べても違いが気にならないほど。

⑬フロントバンパーとサイドのウインカーも本物と寸違わぬ形でプロダクトされたパーツを使用している。⑭テールレンズ、レンズハウジングもオリジナルを忠実に再現したパーツを使用する。⑮左のリアフェンダーに付くフェーエルキャップと赤いリフレクター、ハウジングもオリジナルと見分けがつかないレベルの出来。

チーム・トヨタのキャプテン細谷四方洋さんが監修

チーム・トヨタのキャプテンとして、2000GTのタイムトライアルでドライバーを務めた細谷四方洋さん(左下写真の左、右下写真の左)は、デザイナーの野崎嶽さんのアシスタントとして、2000GTの開発に深く関わった。そんな細谷さんは、フロントフェンダーの線の部分やサイドの流れるようなラインなど、ボディラインにこだわり、細かいオーダーを出した。それをもとにロッカーオート渡辺喜也さん(左下写真の右)が、徹底的に改善したことで、ここまで完成度の高いレプリカが完成したのだ。



RHVがお披露目された昨年9月の「オートレジェンド」では、本物の2000GTと、このRHVを前にミニトクショーを行った。

SHOP INFORMATION

ロッカーオートスタジオ

〒444-0003 愛知県岡崎市小美町字殿街道153

TEL 0564-66-5488

<http://www.rockyauto.co.jp/>

Nostalgic Hero

Nostalgic 2days 特別号
ノスタルジック 2デイズ

4 2015 APRIL

TOP ARTICLE ● 特集

心に残る 国産旧車たち

フェアレディZ432 / トヨタ スポーツ800 / ブルーバードSSS /
セリカ1600 GTV / ホンダS800 / ベレット1600 GT

Classic Cars that Remain in our Hearts

第2特集

商用車グラフィティ

くろがねベビー / 日産ジュニア / メルセデス・ベンツ ウニモグ

好評連載

アメリカ発! ニッポン旧車の楽しみ方 FJ40ランクル
HOT CLASSIX 20年かけた珠玉のストリートZ
[新連載] あの時代、あのクルマ 1954~56年編

EVENT

ヨコハマ ホットロッド・カスタムショー2014
東京旧車会 in 奥多摩
JCCA 2015ニューイヤーミーティング ほか

Nostalgic 2days
ノスタルジック 2デイズ
2/28-3/1 2015
at Pacifico YOKOHAMA